

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型サービスとしての理念 住み慣れた地域の中で、その人らしい生活が出来るように、家庭的な雰囲気の中で、持っている力を最大限に引き出せるように、日々利用者と関わるよう取り組んでいる。		
2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念の共有と日々の取り組み 日々の申し送りやカンファレンスの際に、個別の具体的なケアについて話し合い、ケアの統一をはかり実践している。見やすい所にケア理念を開示し、勤務中にも確認できるようにしている。		
3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族や地域への理念の浸透 家族には、入所時に重要事項説明書にて入居時に説明を行っている。地域の方には、運営推進会議や町内会の行事等に参加した際に、グループホームの様子や行事の話をお伝えしている。		
2. 地域との支えあい			
4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	隣近所とのつきあい 近所の方と挨拶を交わしたり、散歩に訪れることがある。また、ホーム周辺の草刈りを手伝って下さったり、呼び掛けにホーム内で行っている勉強会に参加されることもある。これからも、地域の方と日常的に関わりが持てるような取り組みを行っていききたい。		
5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域とのつきあい 町内のお祭り・盆踊りにて、地域の方と交流を図りながら楽しんで参加をしている。近所の小学校の「子ども110番」に加盟し、地域への貢献を行っている。また、近所の方がボランティアとして毎月ホームを訪問し、利用者と一緒に昔の歌や民謡・お話をしながら楽しい時間を過ごしている。顔馴染みの関係となっていることもあり、ホームでの行事にお招きし、利用者・家族・職員らと一緒に過ごす事もある。		状況に合わせてながら、ホームで企画した行事などに地域の方にも参加を呼びかける事で、普段の様子も見ていただく事が出来たり、利用者との交流はもちろんの事、その家族とも交流が持てたりもするので、今後もこのような関わりが続けていけるよう工夫を重ねながら取り組んでいきたい。
6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	事業者の力を活かした地域貢献 運営推進会議や勉強会などを通じて、地域の高齢者や家族の役に立てるような情報の場として取り組み、いつでも相談が出来るよう心掛けている。ホームに出入りして下さっている地域の方や家族から相談を受けることもあり、内容に応じた情報を提供している。これからも、そのような繋がりを大切にしながら、共に協力が出来るような関わりを続けていきたい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>職員の関わり方によっては、虐待と捉われる事もあるため、関わり方にも意識して取り組んでいきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常の関わりの中から利用者の意見を伺うと共に、ホームの玄関に「意見箱」を設置し、それを通して意見を表現できる機会を作っている。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時にはご家族に、日常の様子や体調について、また、往診や受診の結果などをお伝えしている。その他にも、毎月近況報告のお手紙にて、普段の様子などと併せて、写真を同封している。預かり金の使用状況については、面会時に預り帳を確認していただくとともに、毎月預かり帳のコピーと領収証を郵送している。		定期的に広報誌を発行しており、その中でも日常や行事での様子、職員の入職・退職などについてもお伝えをしている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項説明書に苦情・相談窓口について明記し、入居時に説明をしている。家族の面会時や運営推進会議などで問い掛けたり、何でも言ってもらえるように雰囲気作りを行っている。意見や要望には、早急に対処を行い改善に努めている。玄関にも意見箱の設置をしている。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月管理職会議を行い、その結果を全職員に書面や口頭を通じて伝えている。意見や疑問点があれば、その都度管理者に報告して話し合ったり、会議の議題として提案し、意見反映に努めている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	受診や行事などの状況に合わせ、利用者の負担にならないよう事前に職員の勤務人数を配置したり、勤務時間の調整を職員と話し合いながら取り決め、その状況に応じた柔軟な対応が出来るよう取り組んでいる。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者や職員の状態に応じてローテーションを組む場合は、必要最低限度に抑えられるように考え、利用者には掛かる影響が少ないように配慮をしている。また、やむを得ず異動や離職がある場合には、引継ぎをしっかりと行い、徐々に利用者との馴染みの関係が築けるよう、周りの職員もサポートしながら取り組むようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用者にとって、どのような支援が必要なのかを、利用者・家族から情報や聞き取りを行う事で状況を見極め、その利用者にあったサービスが提供できるような取り組みを行っている。場合によっては、他の事業所と連携を図り必要なサービスが提供できるよう努めている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に本人と家族でホームの見学を行ったり、事前にこちらから訪問を重ねることで、少しでも顔馴染みの関係が築け、入居時にも覚えていて下さることがある。利用者にとっても話しをした事がある者がいることで、これから生活を送っていくことに対しての安心感に繋がるきっかけになるよう、家族とも相談をしながら関わっていききたい。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に家事をしたり生活を共に過ごす事で、利用者を尊重しながら個々に合わせて、活躍出来る場や利用者から学ばせてもらう機会を作るように心掛けている。また、普段の関わりの中から、利用者の表情やしぐさ等も気に掛け、個人に合わせた関わりに繋げられるように努めている。		これからも利用者と一緒に生活を送りながら、一方的な関わりにならないように努めていきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族の思いや相談・悩み・困っている事などにも耳を傾け、こちらからも日々の様子をお伝えしながら、一緒にその利用者を支えていけるように、家族との関わりも大切にするよう心掛けている。また、日常の出来事や変化・新たな発見などをお伝えすることで、一緒に考え共有したり、共に喜んだり出来る関係が持てている。		家族が職員に対して、困っている事などを、いつでも相談が出来るように、これからも家族との関わりも大切にしながら日々、努力していきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族との外出や外泊、面会などを通じて、好きなときに好きな場所で一緒に時間が過ごせるよう、特に時間の取り決めなどは作ってはいない。また、行事には家族にも呼びかけをし、協力を仰ぎながら無理のない範囲で参加し、一緒に楽しい時間が持てるよう努めている。		外出時などには家族と相談し、必要に応じて、車椅子の貸し出しや、外出先まで送迎を行っている。出来るだけ家族や利用者負担にならないよう、これからも努めていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔からの友人や遠く離れた親戚などの面会や電話があり、昔を懐かしみ、好きな場所でお茶を飲みながらゆっくり時間を過ごしていただく機会がある。また、年賀状のやりとりがあったり、誕生日にはお花が届いたりしており、以前からの関係が続いている。入居後にも、それまで通っていた美容院などに出向くように心掛けている。今後も顔馴染みの関係が続けていけるよう、支援していきたい。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者の状態を把握し、食卓の席や外出時など、利用者同士で関わりが持てるよう、配慮をしている。食事中、日常的に会話をされていたり、食後には、利用者自らの隣の方の食器を下げてくださる場面がある。また、職員が適度に介入して仲介役となることで、利用者同士の関わりがきっかけとなる場面もある。		状況により職員は、様子を見守ることで利用者同士、互いに気遣ったり、利用者自身で考え行動される場面もあるので、その状況を見極めながら、利用者の思いを大切に、関りを継続していきたい。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	来所持や電話にて相談を受けたり、また必要に応じて情報を提供する姿勢を持ちながら、継続的な関わりが持てるよう努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前の訪問時などで、本人や家族から、思いや希望・心配な事などを伺うようにしている。入居されてからも、実際にホームで生活してみたいことや、気になったこと・不安なことなどを、面会時など家族から伺うよう努めている。また、本人には日常の関わりの中で、思いを引き出すような関わりを心掛けており、出来るだけ希望に沿った支援ができるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者や家族から聞き取りを行ったり、個別のシートに生活歴などの情報を、本人や家族で記載していただいている。それをスタッフ間で共有し把握することで、利用者を知り、そして今後の関わりがきっかけに繋げている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	利用者や家族からの情報をもとに、これまでの生活習慣にも配慮しながら一日の過ごし方などを気に掛け、個々の状態に合わせて対応している。また、職員間でもその情報を共有し、継続して支援できるよう努めている。		毎日新聞に目を通したい・日中横になる時間が欲しい・好きなテレビ番組を観たいなど、日常の関わりの中でも利用者の声や、可能性を引き出すような関わりを心掛けていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	利用者本人が、その人らしい生活が送れるよう、本人や家族から得た情報などをもとに、職員間でもカンファレンスなどで話し合い、介護計画を作成している。また、家族からの要望なども取り入れ計画に盛り込むようにしている。毎月家族に、介護計画書の説明を行い、承諾を得てから、署名・捺印をいただいている。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>毎月のカンファレンスで利用者の状態などを話し合いながら、現状に即したケアプランの見直しを行っている。利用者の状態を日々観察し、家族にも面会時などに普段の様子を報告・相談しながら利用者の変化に対応したプランを立案していくよう取り組んでいる。評価期間前に変化が生じた際には、カンファレンス前であっても職員間で話し合い、利用者の状態に沿って柔軟に対応していくように努力している。</p>		
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>利用者の日々の様子や体調の変化・関わっての気付き・発見・ケアの工夫など、細かく個別の記録に残している。その際、具体的な対応や利用者からの言葉なども記載することにより、誰が見てもその状況が把握しやすいように心掛けている。それらの情報を職員間でも共有し、ケアプランの見直しや新たな関わりにも活かすように努めている。</p>		<p>個別の記録の他に、利用者の情報などを記載する「連絡ノート」も活用し、職員間で情報を共有して利用者に関わるよう努めている。職員は勤務前にそのノートに目を通すようにし、理解を得てから個々で捺印して利用者に関わるように心掛けている。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>家族からの急な外出や外泊にも、その都度対応を行っている。また、遠方からの家族の訪問時には、希望に応じて宿泊ができる部屋の提供を行っている。出来るだけ利用者や家族の希望に沿うことが出来るように、これからも取り組んでいきたい。</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	<p>運営推進会議には、町内会や民生委員の方にも参加していただき、意見交換をする場を設けている。また、月に一度町内会の歌のボランティアが来てくださり、楽しい時間を過ごしている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>	<p>利用者に応じ、訪問歯科や、訪問美容を利用したり、利用者によっては、クリーニングをお願いし、来てもらっている。</p>		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加できるように連絡を行い、地域や社会資源の新しい情報交換が出来るように努めている。</p>		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前からのかかりつけ病院に、継続して通院することで、病状の変化や普段の様子・相談などが伝わりやすかったり、体調不良時の24時間受け入れ体制が整っている。また、新規で受診する際にも家族に相談をし、可能であれば状況に応じて受診に同行される事もある。そうすることで、家族が気になっていたことなども医師に相談でき、情報の共有に繋がっている。同行が困難な場合には、受診結果を電話などで家族にお伝えしている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>認知症の詳しい症状や対応などについて、相談が出来る専門医がおり、関わりのアドバイスをもらい、その後の対応に繋がっている。また、出来る限り家族も同行することで、本人のみならず家族の安心にも繋がったり、不安な事や気になる事などをその場で専門医に確認し、納得したうえで治療が開始されている。その理解が得られていることで、普段の生活状況も見えやすく、家族の協力が得られやすいこともある。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>週に2回、医師・看護師の往診があり、利用者の状態報告や相談ができる体制がある。また、往診の他にも電話での相談を行ったり、24時間、医師に連絡・相談をすることができる。往診時には、個々の利用者の状態を報告する「健康管理記録」で、看護師とのやり取りにて、医療面からのアドバイスなどもある。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者の入院中、病院に出向き、状態を実際に会って確認をしたり、病棟の看護師からの情報収集も行っている。利用者の状態を踏まえ、早期に退院が出来るよう、事前に家族と話をしたうえで、可能な限り、医師と家族で話しを行う際に同席させていたが、困難な場合は、家族とのやり取りを行いながら情報を共有し、退院に向けて働きかけを行っている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に重度化の説明を行い、重度化や終末期に伴う意思確認を、本人や家族の思いをくみ取り、かかりつけ医や看護師・協力医療機関などと連携し、話し合いをしている。健康管理や今後の容態の経過や変化・注意点、急変時の対応など確認し、支援を行っている。</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>本人や家族の意思を踏まえ、家族・職員・やかかりつけ医・看護師と話し合いを行い、支援できるよう取り組んでいる。また、職員の不安なことも話し合いを行ない、急変した場合は、すぐに対応をして頂けるよう協力医療機関との連携を図り対応している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	本人の意向を踏まえううえで、それまでの生活状況などの情報を、家族や新たなケア関係者に報告・情報交換を行い、利用者の混乱を最小限度に留めるよう、十分な配慮を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	普段から利用者に対して、その方を尊重した声掛けを心掛けている。トイレなどには、周りにいる利用者の目もあるので、さり気ない声掛け・誘導を行ったり、利用者がひとりでは困難な事・失敗してしまった事に対しても、その利用者や周りにも気を配りながら対応を行うよう努めている。個人情報の取り扱いについては、ホームの外には持ち出さず、また処分する時にはシュレッターにかけるなどの対応を行っている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	何がしたいか・何を食べたいか・何処へ行きたいか・どちらがいいかなど、利用者の一人ひとりが、個々の思いや希望を表現できるように日常の会話や表情・動作などを気に掛けて関わるようにしている。利用者本人が選び、自己決定できる環境や場面を、関わりの中から作るようにし、例え時間を要しても自由に意思表示ができる場面作りをこれからも大切にしていきたい。		日常的に利用者本人に選んでいただく機会や、また、一緒に買い物に出掛け洋服を選んだりする場面もある。そのような中で利用者の情報や、新たな発見などもあり、今後の関わりのきっかけに繋がることもある。これからもそのような環境や場面作りを心掛けて利用者と一緒に過ごしていきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりの過ごし方に気を配りながら、その都度利用者に希望を聞いたり、相談しながら支援するよう努めている。朝は何時に起きたいか・お風呂にはいつ入りたいかなど、利用者の希望に職員が合わせるように支援するよう心掛けている。状況に応じやむを得ず、すぐに対応出来かねる事については、その理由をお伝えするとともに、いつであれば可能であるかなど、利用者と一緒に相談しながら出来る限り希望に沿えるようこれからも努力していきたい。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	利用者本人からの希望時には、顔馴染みの美容院や近所にある行きつけの床屋などに定期的に出席している。また、利用者の状態や冬場などにより、出掛ける事が困難な時には、訪問美容を活用している。		利用者の身だしなみに気を配り、衣服の汚れや綻びなどがあった時には、着替えを行ったり手直しをしている。また、日々本人が着たい服を着たり、外出や行事に合わせておしゃれができるよう、これからも支援していきたい。
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者にとって食事が楽しみなものになるよう、誕生日や定期的な行事などに食べたいものを聞き、好きな物を取り入れている。利用者の希望により毎朝パン食にしたり、食べ方や飲み込みなどの状況に応じ、あらかじめおかずを刻んだり汁物にとろみを付けるなどの対応を行い、出来るだけ苦痛がなく美味しく食事が取れるよう心掛けている。また職員と一緒に調理や盛り付け・片付けを行う事で、利用者役割が持ったり、職員が利用者味付けや工夫などを教わる機会にも繋がっている。		事前に利用者何を食べたいかなど希望を聞いた上で、定期的に外食に出掛けたり、ホームで季節の食材を使ったバイキングなどを企画し、楽しむ機会を作っている。家族にも呼びかけをし、一緒に外食を楽しんだり、毎年新年会を開き家族と共に鍋を囲んでいる。今後も食事を楽しみながら家族との関わりが持てるよう取組んでいきたい。

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>利用者の状態に配慮をしながら、一人ひとりの習慣や嗜好に合わせて楽しみが続けられるよう取り組んでいる。家族が持参された好きなおやつを勧めたり、本人に尋ねて好きな飲み物などを提供している。また本人に尋ねながら、晩にお酒を飲まれている方もいる。これからも、利用者の状況に合わせて日常的に楽しみが持てる機会を作っていきたい。</p>		<p>今後も家族からの情報や、普段の関わりの中から知り得た情報を取り入れて、利用者が楽しみを持って生活ができるよう取り組んでいきたい。</p>
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している。</p>	<p>排泄チェック表を活用し、個々のパターンを把握する事で失敗を減らし、出来るだけトイレで排泄が行えるよう取り組んでいる。排泄パターンを把握し記録に残す事で、下剤などのコントロールにも繋がり、失敗を出来るだけ防ぎ、気持ち良くトイレで排泄ができるよう努めている。利用者の行動や表情なども気に掛け、トイレのサインが見られた際には速やかに誘導している。また尿意の訴えが困難な方には、排泄間隔などの状況を見極めてトイレへ誘導し、腹部マッサージなどを行う事で排泄を促している。今後も、利用者個々の状態に合った支援を心掛けて取り組んでいきたい。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>入浴する日や時間は、利用者の希望に沿って、相談しながら決めている。お風呂は毎日沸かしており、いつでも入浴できるようにしている。また、利用者の状況や希望により、同性の職員で介助を行うなどの対応を行っている。</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	<p>利用者それぞれの生活習慣などを把握し、適度に休息が取れるよう支援を行っている。状態に応じ、リクライニングチェアや足乗せ台などを使用し、安楽な姿勢で休息がとれるようにしている。夜間、目が覚めた利用者に対しては、それが排泄や空腹などのサインである場合があるので、状況に応じて捕食を勧めたりトイレへ誘導・おむつ交換を行い、気持ちが落ち着き安眠が取れるよう努めている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	<p>食事の準備や洗濯物たたみなどの家事や花壇の手入れなど、日常の関わりの中から利用者の出来る事・出来そうな事・好きな事などを引き出し、一緒に行い楽しむ機会を作るよう努めている。また、日光浴や外出・選挙への投票に出掛けるなど、利用者の希望に沿った楽しみが持てるよう、これからも働きかけを行っていきたい。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>利用者のお金はこちらでお預かりしているが、その際お金を預かっている場所を本人に伝え、実際に見ていただき理解を得るように対応している。支払いの場面では利用者の状態に応じ、出来るところは見守りし、必要に応じ介入をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者の希望に沿えるよう外に出掛け、外気に触れる機会を作っている。例えば短時間であっても、朝のゴミ捨てを職員と一緒にしたり、玄関先で日光浴を行ったりしている。また、ゆっくり近所を散歩しながら花を摘んだり、花壇を眺めて過ごすなど、季節が感じられる関りを、これからも続けていきたい。		利用者の状況や希望に合わせて、個別で外出をしたり、仲の良い利用者同士での外出も企画している。一緒に生活を送っている利用者同士の繋がりも大切に、楽しみが共有できるような働きかけをこれからも増やしていきたい。
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	地域のお祭りやその季節に行われるイベントなど、事前に情報を集め、利用者に希望を尋ねてた上で出掛ける機会を作っている。利用者の状況に合わせて、その方が何に興味があるか・どんな事であれば楽しめるかななどを、関わりの中から探り、支援するよう心掛けている。また、家族にも呼びかけ一緒に楽しめる時間が持てるよう取り組んでいる。		家族にも呼びかけを行う事で、利用者と家族の繋がり他に、職員と家族・また、家族同士の交流にも繋がるきっかけが持てている場面もあるので、これからも積極的に家族も巻き込んでの外出などを企画し、一緒に楽しめる機会を作っていきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	家族や友人などから贈り物や手紙が届いたりすると、お礼の電話を好きな時に自由に掛けていたり、お手紙を書いたりする場面がある。また、利用者の希望でハガキを買い、友人などにお手紙を書く機会もある。利用者にとっての大切な方との繋がりが、これからも続けられるよう働きかけを行っていきたい。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも好きな時に訪問が出来るよう、特に時間の取り決めは設けてはいない。訪問時にはお部屋や居間などで、ゆっくり落ち着いて過ごせる場所で、大切な方との時間を過ごしていただいている。		家族や友人などの訪問時に、一緒にお部屋で、持参された昼食を召し上がったたり、また、一緒に外出されることもある。今後も、そのような関わりが続けていけるよう取り組んでいきたい。
(4) 安心と安全を支える支援			
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する勉強会をホームで行い、なぜ行ってはならないか・どの様なことが拘束に含まれるのか等の意味を深く理解した上で、利用者のケアに取り組むよう努めている。また、カンファレンスなどでも振り返りの機会を持つようスタッフ間で話し合い、自身の利用者との関りを見直し、統一したケアが出来るよう努力している。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	利用者の習慣や行動など普段の様子を気に掛け、日中は鍵をかけず、自由に外と行き来が出来る対応を行っている。外に出たいサインが見られた際には、さり気なく声を掛け、安全に行き来が出来るよう付き添いを行っている。		夜間は外部からの安全対策の意味もあり、鍵を掛けてはいるが、朝には開けるようにしている。また、フロアの内玄関にはドアチャイムを設置しており、来客の訪問が分かりやすいようにしたり、利用者が外に行きたい時には職員が付き添う事で、安全に出掛けられるように対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者が、どこで何をしているのか、さり気なく把握しながら職員同士連携をとり、所在確認を行っている。夜間は、定期的に巡回を行い利用者の安否を確認している。利用者の状況に応じ、居室にセンサーを設置したり、内玄関にドアチャイムを取り付けているが、その音のみを過信せず、職員の目で所在・安否の確認も行っている。ひとりでふらりと外へ出て行かれる可能性のある利用者には、事前に家族の承諾を得た上で、各ユニットに顔写真と特徴を記載したものを配布し、またその日の服装を確認し、万が一に備えて協力を仰げる体制を作っている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	安全に使うことはできるか・認識や理解は出来ているか、などを関わりの中から把握し取り扱うようにしている。包丁や縫い針などを使用するときには、必ず職員が傍で付き添いを行っている。野菜を切ったり、縫い物をしたり、自分で髭を剃ることができる利用者もいるので、危険だからと取り除くのではなく、見守りを行いながら利用者が今出来ている事を大切にしていきたい。また今後、状況が変われば、他にどのような方法があるか・どんな工夫が出来るかなど日々考えながら、これからも関わっていきたい。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	未然に事故を防ぐために、歩行が不安定な方には付き添いを行ったり、窒息の恐れがある方には、飲み込みの状態に合わせた形状で食事を提供している。また誤薬を防ぐためには薬のセット時や内服前などに職員間で確認を行っている。事故が発生したときには速やかに報告書を作成し、事故が起きた背景・原因・今後の対応などをカンファレンスなどで話し合い、職員が共通の認識の下、同じ事を繰り返さないよう事故防止に努めている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	心肺蘇生や避難訓練は年二回、消防の方の指導の下実施し、学ぶ機会を作っている。また、緊急時対応の勉強会もっており、いざという時に対応が出来るように、定期的に取り組んでいる。緊急時のマニュアルや利用者の病歴・内服している薬などがひと目で分かるファイルを作成し、急変時などに備えている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消火器や避難経路確保などの点検・避難訓練を、定期的実施しており、利用者が安全に避難できる方法を身に付けるよう取り組んでいる。避難訓練は、日中・夜間を想定した訓練を交互に行っている。また、町内に方にも呼びかけを行っており、地域との結びつきも大切にしている。		
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族に現状をありのまま伝えることで、起こり得るリスクについても理解をいただくと共に、利用者の情報を共有し、一緒に相談しながらその人らしい生活ができるような関わりを心掛けている。また、帰りたい思いが強い時には、事前に家族の了解を得た上で、電話にて協力を仰ぐこともある。利用者の行動を抑制するのではなく、その利用者に寄り添いながら柔軟な対応が出来るよう、これからも家族の協力も得ながら努力していきたい。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	<p>日頃から普段の様子と変わりはないか・体調不良はないかなどを観察し、細かく記録に残しながら、職員間で利用者の状態を共有するよう取り組んでいる。異変を発見したり、気になることがあれば、往診時に医師や看護師に相談をしたり、医療機関に連絡を取り、速やかに対応するよう取り組んでいる。</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>利用者一人ひとりの内服薬の情報が、個人ファイルに綴っており、薬効・副作用などをいつでも確認ができ、理解に努めている。特に、新たに処方された服薬については、その副作用などを医師や看護師に確認したり、薬辞典などで詳しく調べたりし把握していくよう取り組んでいる。また内服後の状態の観察にも努め、記録に残したり、異変があれば医師や看護師・医療機関に相談を行っている。</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。</p>	<p>個々の利用者の状態に合わせて、便秘予防のため、毎日牛乳やヤクルトを勧めたり、体操を行い身体を動かす機会を作っている。また、普段から適度な水分を勧めたり、食物繊維を含む食材を取り入れるように心掛けている。トイレ時には、腹部マッサージを行い排便を促したり、場合によりホットパックで腹部を温めて促すようにもしている。</p>		<p>下剤だけに頼らず、自然に排便が見られるような働きかけを、これからも続けて行っていきたい。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。</p>	<p>起床時や毎食後に歯磨きの促しや、介助を行っている。自力で磨ける方は出来る範囲で行っていただき、最後に職員が、磨き残しの確認や口腔内の状態などを観察するため、介助を行っている。義歯を装着している方には、就寝時に義歯洗浄剤に浸け、口腔内の清潔が保てるようにしている。また、定期的に歯科検診も行っており、歯科医から利用者の状態に合った歯磨きの仕方や気をつけることなどのアドバイスがあり、いつでも相談できる体制が整っている。</p>		
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>献立は、栄養士がカロリー計算をしてメニューを立てており、栄養バランスの摂れた食事を提供している。利用者の食事や水分摂取量を毎日確認し、記録に残しており、摂取量にムラがあるようであれば、どのようにしたら食欲が持てるかなど、職員間で話し合い、対応を行っている。水分量が少なめの時には形状を変え、口当たりの良いゼリーなどを勧めたり、食欲に合わせてメニューや代替のものに利用者の好みのもを取り入れたりすることで、楽しみを持って食事が取れるような取り組みも行っている。</p>		
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	<p>外出後には利用者・職員共に、手洗いうがいを行っており、面会者に対しても玄関に張り紙をして呼びかけを行っている。トイレ後など手を拭く際には、ロールタオルやペーパータオルを使用している。トイレ介助時には必要に応じ、グローブを付けており、こまめに手洗いも行っている。適度に室温・湿度を保つように、ユニットに加湿器を設置し、乾燥しないように心掛けている。また、毎年利用者・職員共に、インフルエンザの予防接種を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	毎食後、布巾・台布巾・まな板・三角コーナーの漂白を行っており、食器は乾いた布巾で拭いている。食事の前後には、塩素系漂白剤を薄めたものをスプレーし、テーブルなどを拭くようにしている。食材については傷みはないかなどを気に掛け、鮮度の良いものを提供し、使用前に賞味期限を確認するようにしている。また、温かいものは直前に火を通し、美味しい状態で食べる事が出来るように心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先に花壇を作ったりプランターに花を植えたりしており、立ち入りやすい雰囲気を作っている。また傍らにはベンチや椅子を置いて、ゆっくりくつろげる場所があり、気軽に立ち寄事ができる雰囲気作りを心掛けている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に合わせての装飾や置き物などを飾っており、ホームの中にもその季節を感じられる工夫を心掛けている。また、外出や行事時の写真や、習字などの作品を飾っている。利用者や来客者が足を止めて眺めている場面も見られている。日差しに合わせてカーテンやすだれを掛けたり、テレビは誰も観ていなければ、スイッチを消している。		これからも、その季節にあった温かい雰囲気作りが出来るよう、利用者も巻き込みながら、一緒に居心地が良い環境で生活できるよう、取り組んでいきたい。
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間にはソファを置き、その他にもユニットの各所にソファや椅子を置く事で、人の気配を感じつつも、ひとりで思い思いの時間も過ごせる空間を作っている。ソファで横になって居眠りをしたり、食堂で利用者同士会話を楽しんだり、また椅子に腰掛けながら外の景色を眺めたり、利用者一人ひとり好きな場所で好きな時間を過ごしている。これからも、利用者がゆっくり日常を過ごせる場所を作っていきたい。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に家族と相談し、本人の使い慣れたものや馴染みの物を持ち込み、それまでの習慣などを大切に、安心して生活が出来るように努めている。家族の写真や手作りの物・また、仏壇を持ち込んでいる方もおり、個人に応じて居心地良い環境作りをこれからも続けていきたい。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	その日の天気や気温・季節などを気に掛け、換気や暖房の設定温度を調整している。また利用者の希望にも合わせて、適度な換気も行っている。冬季には、ユニットに加湿器を設置し、乾燥を防ぎ適度な湿度を保つようにしている。トイレや浴室などの換気扇は、常時作動しており、においがこもらない様になっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや廊下には手すりが付いており、利用者が使いやすい高さ・握りやすさで設定されている。車椅子での生活でも支障がないように、ホーム内には段差を作っていない。また、利用者の状態に応じ、エレベーターと階段を使い分けたり、洗面所の蛇口も、回すタイプと上げ下げのタイプがある。トイレも、あえて手すりが付いていない所もあり、日常の中で利用者の残っている機能を活かしながら生活が出来るよう工夫されている。		こらからも、安全に配慮をしながら利用者のいま出来ている事を維持し、見守り・介助をしながら一緒に生活を過ごしていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	入居前の利用者の情報を参考にしながら、その後の関わりの中でも、出来る事・出来そうな事・少し介助を行えば出来る事・ひとりでは難しい事などを把握し、職員間でもその情報を共有しながら、関りを持つよう努めている。居室迷いのある方には、本人と相談しながら入り口前に、表札や写真・目印となる物を飾るなどの工夫をしている。糸口を探りながら関わり、出来る事を維持し、工夫を重ねて利用者の生活をこれからも支えていきたい。		
87	建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関先の花壇の手入れや畑の収穫・雑草取りなどを行い、利用者が活躍し、楽しみが持てる機会を作っている。玄関先でのんびりと日向ぼっこをして過ごしたり、近所の方や新聞配達の方などと、世間話をしたり挨拶を交わす場面もある。		夏場は特に外に出る機会を積極的に作り、利用者が活躍でき、楽しめる場面が持てるよう関わっていきたい。また、そのような中で地域の方との関わりが持て、利用者にとっても良い刺激が持てるようにこれからも取り組んでいきたい。

サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)